

国際文化学部鹿毛敏夫教授の

「橋爪鑑実～大友晴英を支えた忠臣～」が掲載

●大分合同新聞朝刊 2018年11月3日(土・祝)

大友時代を 生きた人々



鹿毛 敏夫

大友義鎮(宗麟)が、弟 天文21(1552)年から、晴英を大内義隆没後の周防 毛利氏によって自刃に追い大内家に送り込んで「大内 込まれた弘治3(57)年ま義長」政権を樹立したことでは、中国地方から九州には前回お話ししました。晴 かけて大内||大友連合とい英が大内家督を継承した う兄弟戦国大名による日本

橋爪鑑実

大友晴英を支えた忠臣



大内家の祖琳聖太子の供養塔||山口市

最大の政権が成立した時期
でした。

兄の大友義鎮が、弟晴英
の大内家入りに際して策略
を練っていたことを示す史
料を紹介しましょう(「麻
生氏旧蔵史料」)。

「上国につき、宿誘等の
事、馳走の趣、慥かに承知
せしめ候、しからば俄に義
鎮見任に任せ、船をもつて
発足せしむるの条、右費煩
見」(提案)で、陸路では

「上国につき、宿誘等の
一行の宿泊所の普請」を命
じたようで、仏蔵寺もその
作事を進めていたようで
す。ところが、兄義鎮の「異
市」に上陸し、聖徳太子か
ら多々良姓と領地大内県を
賜ったとの伝説です。

「上国」したのは天文21年
3月3日ですので、史料は
その1カ月ほど前のものと
なりま。

山口入りに際して、晴英
ならったものです。大内家
のルーツは朝鮮半島百済の
王族で、推古天皇19(61

1)年、百済の聖明王の子
琳聖太子が、海を渡って周
防国多々良浜(山口県防府

の場所)に上陸し、聖徳太子か
ら多々良姓と領地大内県を
賜ったとの伝説です。

大内家の新当主としての
正当性を内外に示すため、

義鎮は、陸路での山口入り
を中断させ、海路から多々
良浜に上陸して大内館に入
るよう「異見」したのです。

の段、連々感悦せしむべく
候、聊かも忘却あるべから
ず候、なお橋爪美濃守申す
べく候」

正月27日付大友晴英書状
です。宛て書きは「仏蔵寺」
となっており、筑前国鞆手
郡笠松村(福岡県宮若市)
の真宗玉泉山仏蔵寺と考え
られます。

晴英は、自らが家督を継
ぐ大内家の山口に上ること
を「上国」と表現。実際に
の大内家館入りを演出した

書状から、義鎮が晴英の
山口入りに反対するどころ
か、自ら妙案を出して、弟
大内家の山口に上ること
を「上国」と表現。実際に
の大内家館入りを演出した

書状から、義鎮が晴英の
山口入りに反対するどころ
か、自ら妙案を出して、弟
大内家の山口に上ること
を「上国」と表現。実際に
の大内家館入りを演出した

大内家の新当主としての
正当性を内外に示すため、

義鎮は、陸路での山口入り
を中断させ、海路から多々
良浜に上陸して大内館に入
るよう「異見」したのです。

晴英は、兄の提案に沿って、
天文21年2月29日に多々良
浜に着船し、3月3日に館
入りします。そして、随臣
橋爪鑑実が、その準備段階
から奔走して、新政権を支
えたのです。(名古屋学院
大学国際文化学部教授)

毎月1回掲載